

採択理由

プログラム名：先端融合領域イノベーション創出拠点の形成

課題名： ナノ量子情報エレクトロニクス連携研究拠点

代表者名： 小宮山 宏

所属機関名： 東京大学

コメント

本提案は、ナノ技術、量子科学、IT ハードウェアの融合領域として、概ね 10 年～15 年後にイノベーションを起こし、革新的な技術開発並びに新産業の創出などが期待されるものと評価された。尚、委員から、以下の様な懸念も出されているので、考慮してプロジェクトを進めて頂きたい。

- ・有機エレクトロニクスと量子ドットの研究は相当異質であり、別テーマではないかと思われる。
- ・育成する人材の質と数が不明である。
- ・企業からの研究テーマ要望と大学の研究テーマがどのようにマッチするのかが不明である。共同研究の場所を作り、一緒にやっていくという以外にビジョンは見られない。
- ・技術開発を進めることによって、それに参画する協働機関の企業が、それぞれの工夫によってイノベーションを創出することを想定している課題であるように見えるが、その意味でもっと能動的に製造プロセスに関する技術も獲得していくなど、イノベーションの実現を図る工夫も組み入れる必要があるように思われる。最終的に市場に投入される製品等のイメージや、そのためにこの課題に期待されることを明確化して頂きたい。
- ・同業 3 社が協働機関となっており、研究期間中に知的所有権等での問題が懸念される。